

美味しい「コシヒカリ」の移植栽培基準例（JAくろべ版）

540kg穫り収量構成の目安

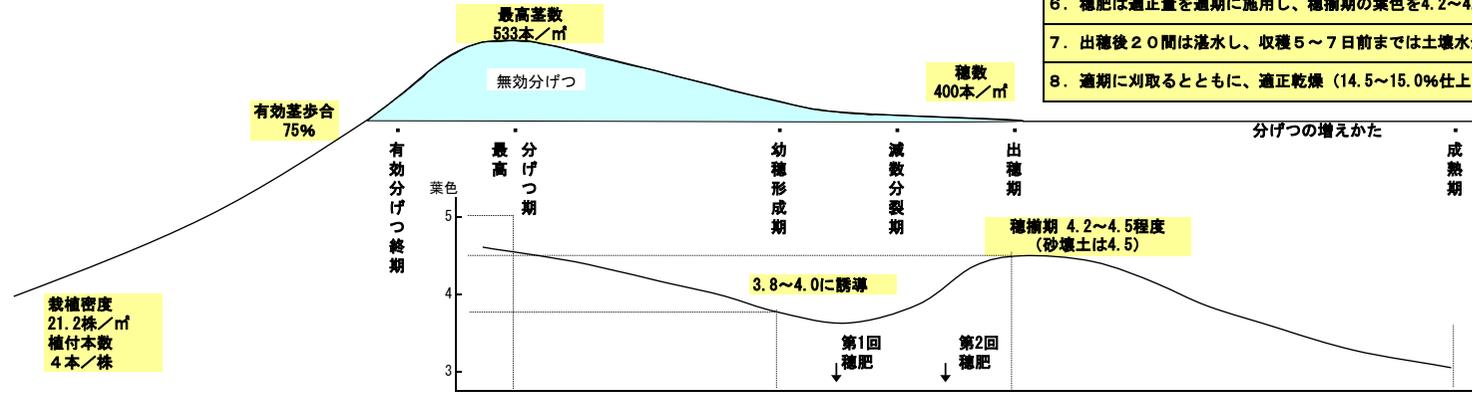
収量構成	目安
㎡当たり最高茎数（本）	533
有効茎歩合（%）	75
㎡当たり穂数（本）	400
平均一穂粒数（粒）	70
㎡当たり穂数（百粒）	280
登熟歩合（%）	87
玄米千粒重（g）	22.5

土壌区別別施肥設計（kg/10a）

土壌区分	窒素施用量				三要素合計		
	基肥 (側条施肥)	出穂15日前	出穂8日前	窒素	リン酸	加里	
沖積	CL	1.8~2.6	1.5	1.5	4.8~5.6	7.0~9.0	8.0~12.0
	L	2.4~3.6	1.5	1.8	5.7~6.9		
	SL	3.0~4.0	1.5	2.0	6.5~7.5		
洪積	L~CL	2.4~4.5	1.5	1.8	5.7~7.8		

栽培のポイント

1. 育苗日数20日間、ハウスの温度管理に注意して、健苗を育成する。
2. 5月15日を中心として、好天日に田植えを行う。
3. 株数は、坪当たり70株を植え、良質の茎を早く確保する。
4. 適正な中干しにより根の活力を高めるとともに、過剰分けつを防ぐ。
5. 出穂30日前から入水し、幼穂形成期の葉色を3.8~4.0に誘導する。
6. 穂肥は適正量を適期に施用し、穂揃期の葉色を4.2~4.5に誘導する。
7. 出穂後20間は灌水し、収穫5~7日前までは土壌水分を維持する。
8. 適期に刈取るとともに、適正乾燥（14.5~15.0%仕上げ）に努める。



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
4/26		5/15	6/4 6/11 6/15	7/12	8/3	9/11	
生育区分	育苗期	田植期	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期 ~穂ばらみ期	登熟期
水管理		やや深水	浅水管理	入水停止→溝掘り 中干し	間断かん水	出穂30日前からの入水 (ヒタヒタ水)	出穂から20日間は灌水管理 間断かん水 (落水を急がないように)

栽培管理のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・葉いもち予防のため育苗期に葉をやる。 ・育苗ハウスが二十五度以下になるよう管理する。 ・播種量は一箱当たり一〇〇g以下とする。 ・十九日間を目安とする。 ・播種日は四月二十六日を中心とし、育苗日数は十分に浸種して芽出しを確実にする。 ・田面の均平を図る。 ・ゆっくりと耕起し、作土十五cm以上を確保する。
<ul style="list-style-type: none"> ・五月十五日を中心とした田植えを確実に実施する。 ・株数は坪当たり七十株を植え、良質の茎を早く確保する。 ・基肥量は地区基準量を守る。 ・一株の植付け本数は四本とし、三cm程度の深さに植える。 ・活着後は浅水管理として分けつの発生を促す。 ・田植後はやや深水として活着を早める。
<ul style="list-style-type: none"> ・田植後三週間を目安に入水を止め、適度な土壌湿度を確保した上で、田植後四週間までに溝掘りを行う。 ・活力を高めるとともに、過剰分けつを抑制する。 ・田植後四週間までに中干しを確実に開始し、根の
<ul style="list-style-type: none"> ・葉色低下を防ぐ。 ・出穂三十日前からの入水（ヒタヒタ水）により、
<ul style="list-style-type: none"> ・幼穂形成期の葉色は三・八〜四・〇に誘導。 ・穂肥は出穂十五日とその七日後に二回施用する。
<ul style="list-style-type: none"> ・穂揃期の葉色を四・二〜四・五に誘導する。 ・穂いもちは出穂直前と穂揃期に二回防除する。 ・カメムシ類は穂揃期防除を中心に確実にを行う。 ・出穂から二十日間は灌水状態を保つ。 ・フェーン時はかん水して、乾燥害を防ぐ。 ・刈取り予定日の五〜七日前までかん水する。
<ul style="list-style-type: none"> ・稲の黄化率八五〜九〇%程度で適期に刈取る。 ・排水溝を掘る。 ・稲わらの腐熟を促進するため、秋耕を行い、必ずを施すなど、地力増強に努める。 ・ケイ酸石灰は一〇アル当たり一〇〇〜二〇〇kg ・九ミリのふるいで選別する。 ・を厳守し、胴割米や過乾燥米の発生を防止する。 ・適正な乾燥速度と仕上げ水分十四・五〜十五・〇%